

週報 みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

第40回全国海水養殖シンポジウム —2月18日 静岡県沼津市にて—

2月18日、第40回全国海水養殖シンポジウムが、「養殖魚の可能性と未来—これからに向けて—」をテーマに沼津リバーサイドホテル（静岡県沼津市）で開催され、全国から魚類養殖業者とその関係者300名以上（三重県からは17名）が参加した。



魚類養殖業者等300名以上が一堂に会した

開会にあたり、(社)全国海水養殖協会の嶋野勝路会長は、「苦しい状況だが、皆で汗を流し、一丸となって浜を活性化させよう」と挨拶した。



挨拶に立つ嶋野会長（全国海水養殖協会）

講演では近畿大学農学部の有路昌彦准教授が、「個人養殖経営者のための経

営技術と経営戦略」と題して講演。資金不足による経営停滞を防ぐため、「金融機関から融資を受けられるよう、事業計画を立てて利益を生む体制を作るべき」と主張した。



有路准教授による講演

また、シンポジウム翌日19日、三重県の参加者らは東海大学を視察（主催：三重県海水養殖協議会）。地震・津波に関する研修（長尾年恭教授）と活断層関連の研修（坂本泉教授）を受けた。発表後の質疑応答では、多くの参加者らが積極的に発言し、活発な議論がなされた。



長尾教授と意見を交わす県内参加者ら

なお、41回目となる次年度のシンポジウムは熊本県で開催されこととなっている。

**第27回農産漁村のつどい
-2月13日 津市にて-**

農山漁村のよさを活かした地域づくりや、農林漁業に男女が協働して取り組み、男女ともにかがやく新しい農山漁村社会のあり方を考える場として、2月13日(金)、三重県男女共同参画センターフレンテみえにて「第27回農山漁村のつどい 魅せつけよう！農山漁村の底力～響き合う関係づくりを求めて～」が開催された。

同つどいの前半では、生産者自慢の農林水産物(加工品)の紹介と、「里山を食いものにしよう」の演題で、和田芳治講師による農山漁村の底力を見直す講演が行われ、後半では、「事例報告～農山漁村に魅せられて～」があり、農業・林業・水産業からそれぞれ1人ずつ取り組みが発表された。

同会場で開催された即売会に、三重県漁協女性部連合会からは、特産品のサメのタレ、あかもくを使用したシフォンケーキなどを出品し、大好評で即完売となった。



大好評であった即売会場

**尾鷲早田寒ブリまつり開催予定
～早田地区再生協議会～**

尾鷲市の早田地区では、2月28日(土)に「第2回早田寒ブリまつり」が開催される。

早田地区再生協議会の主催で、当日は、午前10時30分より、尾鷲市早田コミュニティセンター周辺で寒ブリとヒロメのしゃぶしゃぶ・大敷汁の試食ふるまい、寒ブリべっこう寿司・ブリ丼・地場産品などの販売を行う予定となっている。

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。